

長野・善光寺の秘仏 両国回向院で出開帳 73年ぶり

2013年4月27日～5月19日予定

第3編 復旧地図

享月

日

癸酉

四四



善光寺如来御開帳之圖

●歌川広重「東都名所」に描かれた江戸時代の回向院。境内に相撲小屋も●江戸時代、善光寺の出開帳があった回向院(上図)と両国かいわい(下図)＝いずれも墨田区提供

江戸時代、長野・善光寺の秘仏が開帳され、普男善女がごぞつて参拜に訪れた回向院(墨田区両国2丁目)で来春、73年ぶりに善光寺の仏像を開帳する「出開帳」がある。東日本大震災の被災者支援のための開帳で、浄財は復興支援に充てられる。

善光寺の出開帳 来春73年ぶりに

墨田・回向院 副住職ら企画



回向院の副住職・本多将敬さん＝墨田区、伊ヶ崎忍撮影

浄財で復興支援

出開帳は、ふだんは見ることのできない遠方の寺社の本尊などを一定期間、拝むことができるよう境内に「出張」してもらい、まつることをいう。江戸時代、回向院であった善光寺の出開帳は大変な人気だったと

開帳は、来年4月27日から同5月19日までの予定。

回向院はもともと、江戸の大火(1657年)がきっかけで、10万人を超えたといわれる身元不明の焼死者を供養するためにできた。日本一の無縁寺といわれ、その後も東京大空襲など、戦災や災害の犠牲者を供養してきた。

関係者で、高校の生日本大震災で何か「だろうか」と話しかけて、かつて感んだった善光寺の復活を企画したるだけ多くの人に参拝してもらい被災した人々に慰めてもらえは」と話本多さんは現在住職義敬さん(69)25代目になるためして勉強して

住職を務めるの代から、数学が得意な智大理工学部で「30歳までに回向院かどうか決める」と、事務所に就職し、白理士資格も取得し体調が悪いと聞き戻った。「閉鎖的もある宗教界。外大事にしたい」と無縁寺として知方で、回向院かい戸時代、「江戸陣街」といわれた。出開帳のほか、境相撲や大相撲の場屋などが立ち並ぶ僧次郎吉などの墓本多さんは、に取戻そうと、積動を挑んでいる。博物館と国技館がなっている